

小児科での接種対象

6ヶ月から中学3年生までのお子さん

接種できない場合

6か月未満児 発熱（37.5℃以上）がある
急性炎症性疾患中
感染症の治癒後 2~4 週間
（麻疹・風疹・水痘・おたふく・突発性発疹など）
前の予防接種後からきめられた期間を過ぎていない
インフルエンザ予防接種でアナフィラキシーを起こしたことがある場合
医師が接種できないと判断した場合
コロナワクチン接種前後で 2 週間に満たない場合

注意を要する場合

アレルギーで、卵を一切食べたことがない方
※卵アレルギーの相談は、水曜日午前のアレルギー外来で行っています

接種量と接種回数

6ヶ月以上3歳未満 0.25ml 2～4週開けて2回
3歳以上13歳未満 0.5ml 2～4週開けて2回
13歳以上 0.5ml 1回もしくは1～4週開けて2回

金額

1回目 4200円 2回目 2940円（1回目が他院の場合 4200円）

接種の流れ

受付 予診票記入・検温・看護師による問診
診察・接種 医師による診察とワクチン接種
観察 接種後 15～30分保護者による観察
会計 健康保険組合の受診券は取り扱いませぬ
※ワクチンや接種についてのご質問は、接種前日までにご相談ください

接種後の注意

15～30分ほど院内で様子を見て下さい
気分が悪い、体がかゆい、注射部位が腫れるなどの症状があるときは速やかに看護師に申し出て下さい

小児科では今年度、保護者の方の接種は行いません。高校生以上の方は内科へお申し込みください

以下の説明をよくお読みになり、理解した上で予防接種をお受け下さい。

予防接種とは

弱毒化した病原体（ワクチン）を接種（注射）することで病気に対する免疫（抗体）をつくり、病気に対する抵抗力をつけて発病を予防したり症状を軽くしたりする方法です。

使用ワクチン

インフルエンザHA（4価）ワクチン

予防接種の効果

有効率は健康な成人は約80%、学童は50～60%とされています。
13歳未満の小児は抗体を作る機能が未熟なため2～4週間（3～4週が理想的）の間隔で2回接種することを推奨しています。
予防接種の効果は、注射後2週間からおおよそ5ヶ月程度持続します。

接種前後の注意

接種直前（受付後）の飲食はしないで下さい
接種部位は軽く押さえるだけで、もまないで下さい。
接種後15分程度は飲食を避け、待合室で接種後の副反応（下記参照）が出ないか確認してください。気になる場合は看護師にお申し出下さい。
接種当日の入浴は可能です。接種部位はこすったり搔いたりしないで下さい。普段どおりの生活をして差し支えありませんが、激しい運動や、無理なスケジュールでの外出は避けて下さい。

接種後の副反応

危険な副反応としての呼吸困難や冷や汗などは接種直後より30分以内に出現します。またじんましんやめまいなどが現れたときは受診してください。
局所反応として接種部位の発赤・腫脹や痛み、全身反応として発熱や悪寒、頭痛、倦怠感などがありますが、通常は数日間で消失します。
症状が長引いたりして気になる場合は病院へご相談下さい。

予防接種健康被害救済制度

予防接種法に基づき予防接種を受けたことにより健康被害（重篤な疾病、障害または死亡）が生じたことと認定された場合、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」に基づく救済の対象になります。